

## 地震の被害はなかったでしょうか？

北海道の鈴木岩夫さん、山形の馬場重行さん、東京の木下ひさしさん、田中実さん、須貝千里さん、佐藤久美子さん、茅ヶ崎の青木照明さん、成田信子さん、埼玉の齋藤知也さん、静岡の小林知代さんはじめ会員のみなさん、千葉の中村龍一さん、藤沢の川口達徳さん、ご家族やお知り合いの方、教え子や職場の仲間たち、みんな無事でしょうか。今も、停電などいろんなご苦労が続いていることと思います。

三重大学では、ちょうど卒業論文の発表会をしていました。地震の揺れそのものはたいしたことはなかったのですが、津波警報で三階以上への退避という指示が出ました。

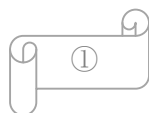
大津波警報の出た太平洋沿岸部には、志摩から、尾鷲、熊野、和歌山にかけて、たくさんの方がおられます。変わりはありませんでしょうか。その後の報道によると漁業被害が深刻なようです。教え子たちのくらしにも影響が出ることと思います。

地震と津波だけでも大災害なのに原子力発電所の放射能汚染まで重なりました。原発は安全だ、と言い続けてきた人たちの責任追及は(忘れないで)いつでもできます。まずは、一人ひとり何ができるのか考え、行動に移しましょう。みんなができることをして、早くふつうの毎日を取りもどすように努めましょう。

わたし(橋本)は、神戸淡路の大震災を奈良で体験しました。学校が無くなってしまった神戸の子どもを、奈良の小学校でも受け入れました。使える鉛筆やノートを送りました。

中国の四川大地震の時は、ちょうど天津にいました。日本での報道とは違い、天津でわたしが見たものは、献血に並ぶ若者と募金に応じる市民たちでした。

神戸でも、天津でも、瓦礫の山から空き缶一個を片づけるだけのような支援や募金に無力さを感じたこともありました。けれど、空き缶一個でも、片づけなければ瓦礫の山はなくなりません。我々は微力だが無力ではない、と言ったのはどなたでしたか、その言葉が胸にしみます。被害に遭われた地域が、これまでよりもっと美しく復興することを信じています。



## 第9回大会を開きました (3月5日・三重大学)

### 参加者50名 当日新会員9名

熱気あふれる大会になりました。来てくださったみなさん、ありがとうございました。来年度の会費納入者は、早くも46人です。

わたし(橋本)の会務報告の概要です。

#### ○会員数

会費納入者実数は、90名です。これは昨年度と同じです。90名というのは、毎月会報を郵送し、まとめの機関誌を出せる最低限の人数です。会計報告もあわせて見てください。

今年度は、田中実さんを招いての学習会、藤原先生の著書の学習シンポジウムと二つの企画を行いました。その財源は、納入会費以外の寄付、これは藤原先生が、著書『語り合う文学教育—子どもの中に文学が生まれる—』の売り上げの半額を寄せてくださっている分ですが、それに依っています。ですから、新たな企画のためには、会員をさらに増やす必要があります。また、機関誌『語り合う文学教育』をさらに普及することも大切です。

機関誌『語り合う文学教育』は、創刊号は保存用の数部しか残っていません。

他は、

2号=50部、3号=40部、4号=30部  
(ここまで各号1部200円)

5号=60部、6号=20部、7号=30部、  
8号=70部(ここまで各号1部500円)  
です。

9号はもちろんまだまだあります。値段は目下の公定価格ですが、この機関誌は普及が第一目標ですので、たくさんお手元にある方はご自分で判断してください

て結構です。それぞれの内容は、ホームページに掲載してあります。ご覧ください。

#### ○運営

三重(会員38名)と奈良(21名)ではほぼ毎月例会を持ちました。活動記録もあわせて見てください。参加者数は、三重では毎回十数名、奈良例会は今年度後半10名を超えるところまで増えました。新たな参加者も増えています。

また、他団体との共同も進んでいます。日本文学協会国語教育部会とは、先に述べた田中実さんをお招きしての夏期合宿をはじめ、さらにつながりを強くしました。三重と奈良の民教連(サ連協)活動にも参加しています。他に、三重県の小学校・中学校国語教育研究会の大会でも講演することができました。公立小学校の研究授業などにも多く顔を出しました。これらのとりくみで、現場の実践に一定の影響力を広げることができたように思います。

#### ○理論的実践的前進

今年度をふりかえって、4つの側面での前進を感じます。

①説明文についての守田さんの講義を聞きました。これまでの実践が意味づけら

れたように思います。段落わけと内容要約とは次元の違う実践の方向性を見いだせました。

これまでも、機関誌6号「生き物はつながりの中に」庄司たづ子さん、7号「千年の釘にいどむ」望月靖子さん、8号「生き物はつながりの中に」望月靖子さんの実践記録を問うてきました。9号には草分京子さんの「自分の脳を自分で育てる」が載っています。ひきつづいてとりくみを進めましょう。

②例会などでの物語の授業実践の討議で、いくつかの教材の見方がさらに進みました。例えば、5月の三重例会「モチモチの木」の庄司実践では、接続詞「でも」から、直接には語られていない大事な場面が浮かび上がってきました。9月の藤原先生の著書シンポでは、奈良の福村さんの「大きなかぶ」の実践報告で、これまでとは全く違う角度からの子どもの感想が紹介されました。11月の三重例会の武村さんの教材研究「ずうと、ずっと、だいすきだよ」では、語り手の「ぼく」についての深めができました。いずれもくわしくは会報で述べましたが、今後の実践でさらに考えて行きたい視点が見いだせたと思います。

③田中実さんを招いての合宿研で、ストーリーとプロットの違い、語りの構造について考えました。読むとはどういうことかという根本的な提起も受けました。大いに刺激を受け、論議が深まったと思います。きょう発表される庄司さんの「ごんぎつね」の実践は、その論議をうけたものです。これまでの「ごんぎつね」実

践事例に新たなページを開くのではないかと期待しています。

④藤原先生の著書の学習シンポジウムでは、子どもの中に文学を見いだすという語り合う会の原点を確認しました。今後のとりくみの方向がより自覚できました。

また、藤原先生は「教室で文学を生みだすための5つの原則と7つの手立て」を発表されました。ホームページに載っています。これまで、語り合う会では授業方法にはふれないようにしてきました。授業は、方法論が先にあるわけではないからです。授業の具体的なすがたは、教員と子どもと教材の一期一会の重なりの中でさまざまに生まれるものです。ですから、今回発表された「手立て」はそういったものではありません。言わば読み手が主体的に読むための原則的方法、思想です。ぜひご覧になってください。

### ○来年度に向けて

語り合う文学教育の会は、2002年6月に結成大会を開きました。いよいよ結成10年を迎えます。来年度こそ、会員を念願の100名以上にしましょう。また、記念誌を出します。内容企画についてご意見をください。

役員事務局員は2年任期なので、今年度を引き継ぎます。新しい事務局員も加わりましたが、さらに、若い実践家、研究者をたくさん迎え入れたいと思います。みなさんのご協力をお願いします。

## 語り合う文学教育の会 2010 年度活動記録

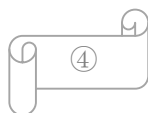
2011年3月5日 第9回総会

2010年

- 2月27日・第8回大会（三重大学）
- 4月10日・三重例会＝実践報告「自分の脳を自分で育てる」草分京子さん  
17日・奈良例会（奈良サ連協国語分科会）＝機関誌8号学習会  
25日・三重民教連集会
- 5月15日・奈良例会＝実践報告「つり橋わたれ」鈴木啓史さん  
22日・三重例会＝実践報告「モチモチの木」庄司たづ子さん
- 6月12日・三重例会＝実践報告「スーホの白い馬」中西祐司さん  
19日・奈良例会＝実践報告「ウーフはおしっこでできてるか??」  
入澤佳菜さん
- 7月 3日・三重例会＝講義「説明文を読むとはどういうことか」守田庸一さん
- 8月7～8日・日本文学協会国語教育部会（東京）  
11日・三重県中学校国語教育研究会（伊勢市）  
21日・夏の合宿研究会（尾鷲）  
記念講演「小学校国語教材を読んで」田中実さん  
実践報告「おにたのぼうし」日下英子さん  
実践報告「白いぼうし」庄司たづ子さん
- 26日・三重作文教育研究会（三重大学）
- 9月18日・『語り合う文学教育』（藤原先生の著書）学習会（奈良）  
発表＝鈴木啓史さん・長澤宏美さん・福村もえこさん
- 10月16日・三重例会＝実践報告「ちいちゃんのかげおくり」原田聡子さん
- 11月 6日・奈良例会＝教材研究「わすれられないおくりもの」鈴木啓史さん  
13日・三重例会＝教材研究「ずうっと、ずっと、だいすきだよ」  
武村道明さん
- 27～28日・近畿東海教育サークル合同研究集会（大阪）
- 12月11日・奈良例会＝実践報告「ちいちゃんのかげおくり」中田明美さん  
18日・三重例会＝実践報告「海の命」小椋光裕さん  
26～27日・日本文学協会国語教育部会冬合宿研（山梨）

2011年

- 1月22日・奈良例会＝教材研究「モチモチの木」菱井一宏さん  
29日・三重例会＝実践報告「わらぐつの中の神様」田木晃美さん
- 2月12日・三重県小学校国語教育研究会（三重大学）  
15日・授業研究会（尾鷲）「ごんぎつね」庄司たづ子さん



## 沈黙・命・少年少女

紙面にゆとりがあるので、震災について述べます。

淡路と神戸の震災を近くで体験したのとして、今、三つのことを思い起こします。

一つは、**被災者の沈黙**です。幸い軽いけがですんだ方、家や財産に損害を受けても何とか暮らしていける見通しの立った方、その人たちはみんな雄弁でした。というより、事実を伝えなければというある種の使命感のようなものさえ感じられる話しぶりでした。その思いはよく伝わってきました。わたしは、それらを通して新聞などが伝えきれない神戸の事実を知ることができました。支援に何が必要かを学ぶこともできました。

その一方、実際の神戸には決して口を開こうとしなかった人たちも少なくなかったのです。わたしがそのことを知ったのは、かなり後でした。復興がある程度進み、テレビやラジオが、特別番組をやめ、いつものお笑いタレントたちのお笑い番組を放送し始めたころ、孤独死の問題が出始めました。誰にもみとられずに亡くなられた方のうち、わたしは統計資料を知りませんが、かなりの方は自死でした。震災のことを何も語らずに死んでいった人たちもいます。

わたしは、すぐにヒロシマを思いました。被爆者たちの沈黙を思い出したのです。学生時代の原水禁運動、教員になってからの修学旅行と事前学習などで、わたしは広島でいろんな方に会うことがで

きました。

被団協には入っておられるし、わたしたちとも会ってくださるのに、とうとうご自身の被爆体験は語られなかった方もいます。最期にこれだけは、と話し始めた方にも会いました。

今回の震災で、テレビやラジオの質問者はよく「今、どんなお気持ちですか？」と言います。マイクを向けられた人たちは、一瞬ことばをさがしているようですが、ふつうのことばしか出てこない場合が多いようです。そうしかないだろうと思います。ことばを超える体験だったのですから。

別の話ですが、抗がん治療をされている方に「がんばってください」と言って、きわめて不愉快な顔を返されたことがあります。わたしは健康なあなたに言われなくてもがんばっている、そうでないと命がない、これ以上何をがんばれと言うのか、という意味の手紙をあとで読みました。

これらの体験から、わたしが今できることは、どんなお気持ちですか、がんばってください、と声をかけるのではなく、ことばを無くしている方たちの沈黙の前に立ちすくむことだけではないか、と思います。

**奇跡的に助かった人**のニュースには、ほっとします。でも、あるテレビ番組で、その方の人から人となりを身近な人に聞いて、とってもいい人なんですね、としめくくっているのには、またかと思いま

した。

わたしは教員ですから、学校関係の事件をよく覚えています。子どもにしろ、教員にしろ、事件や事故で亡くなると、みんないい子、いい先生になります。惜しまれた死ができあがるのです。評判のよくない、子どもたちに人気のない先生は、死んでも仕方ないと言いたいのかとかんぐってしまいます。あるいは、ふだんから評判良く生きろという道徳律をすりこんでいるのでしょうか。

これはもっと昔の話になります。わたしが20代の頃です。奈良で戦争体験の聞き取りをしていました。ある戦死者のお母さんが、あの子は不良で生きていても監獄行きだったろう、苦勞がなくなったという思いもあるが、あの子は親不孝もできずに死んだ、と言われました。このことばも忘れられません。

出来のいい子、悪い子の規準はどこにあるのだろうか、仮にその規準があったとして、それで命に差があるとでもいうのだろうか、災害の報道でも、子どもや

教員の事件のニュースでも、そう思ってしまいます。

3つ目は明るいことです。神戸で**中高生は大活躍**しました。中高生が「仕切る」避難所は、秩序が保たれ、清潔さでも際立っていたと聞きました。今回も似たようなことが伝えられています。

どうしてそうだろうかと考えました。中高生は組織的に動けるし、何より行動力がある、自分のしたことが相手に評価されることに歓びを感じる、などいろんな要素があるでしょう。わたしは、我が身と引き比べて考えた時、彼ら彼女らの行動の原理が正義のみだからではないかと思いました。わたしは、いろんなとらわれから抜け出せませんが、信念だけでは行動できません。でも、彼らは唯一正義を規準として動いているように見えます。そして、正義はやはり強いものです。わたしは、ここに未来があると感じます。

こんな気楽なことをごたごた言うより、今は行動です。会員のみなさん、できることをやりましょう。

### ○大会に来てくださった会員のみなさん

葉書に近況や機関誌の感想を書いて送ってください。次回の会報に載せます。匿名でもかまいません。

また、これからも例会に来てください。奈良と三重のどちらでも参加できます。伊賀と名張の方は奈良例会にもどうぞ。そんなに遠くないですよ。

### ○大会に来られなかった会員のみなさん

機関誌『語り合う文学教育』9号をおくりします。同封してある払込票で年会費をお願いします。また、葉書で近況と感想をお寄せ下さい。

近くの方は、もちろん例会に来て年会費を払ってください。

### ○まだ会員でないみなさん

払込票で年会費を納めてくだされば、すぐ機関誌9号をお送りします。9号には、次のような論文と実践報告が載っています。

#### ☆論文

情報時代の文学教育（伊藤隆司）／ 物語の授業と自立（橋本博孝）

PISA型読解と語り合う文学教育（藤原和好）／ PISA型読解力と説明文指導（守田庸一）

#### ☆実践報告

「スーホの白い馬」（中西祐司）／ 「ちいちゃんのかげおくり」（中田明美）

失われた世界との出会い―「白いぼうし」―（庄司たづ子）／ 「おにたのぼ

うし」（日下英子）／ 川島先生は大事なことを忘れてるよ―「自分の脳を

自分で育てる」―（草分京子）

ぜひこの機会に会員になってください。いっしょに国語教育について考えていきましょう。

## 4月は…

### 9日（土）三重例会

実践報告「大造じいさんとガン」草分京子さん

午後2時半～ 三重大学教育学部4階国語科ゼミ室

年間計画も話し合います

### 23日（土）奈良例会

機関誌9号を学習しながら、文学教育とは何かを考えます。

午後1時からの奈良サ連協集会の分科会としておこないます。

奈良教育大学附属小学校

分科会の開始は午後2時半ごろになります。年間計画も話し合います。

